

以上、今まで南芦屋浜で確認した水辺の鳥を中心とした鳥の種類です。これをまとめると以下のように15科30種が現在までに確認された鳥です。

- ①ガンカモ科 カルガモ・ハシビロガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・スズガモ・キンクロハジロ・ウミアイサ…7種
- ②ウ科 カワウ…1種
- ③カイツブリ科 カンムリカイツブリ・ハジロカイツブリ…2種
- ④カモメ科 ユリカモメ・コアジサシ…2種
- ⑤シギ科 ハマシギ・イソシギ・キアシシギ…3種
- ⑥チドリ科 メダイチドリ…1種
- ⑦サギ科 アオサギ・ダイサギ・コサギ…3種

- ⑧セキレイ科 セグロセキレイ・ハクセキレイ・マミジロタヒバリ…3種
- ⑨ヒタキ科 イソヒヨドリ・ツグミ…2種
- ⑩メジロ科 メジロ…1種
- ⑪アトリ科 カワラヒワ…1種
- ⑫ハタオリドリ科 スズメ…1種
- ⑬ムクドリ科 ムクドリ…1種
- ⑭カラス科 ハシボソガラス…1種
- ⑮ヒヨドリ科 ヒヨドリ…1種

以上が現在までに南芦屋浜とその周辺で確認できた鳥ですが、まだ1年あまりの調査にすぎず、今後の調査でまだまだ種類数は増えるものと思われ、今後に期待が持てます。

まとめ

南芦屋浜に飛来する水鳥や水辺の鳥を調査した結果、次のようなことが考えられます。広い人工湾はスズガモのような大群で飛来する海ガモにとって越冬地としての極めて有効な役割を果たしているといえます。普通のカモ類なども、人の多い芦屋川河口の海岸などに比べ、ゆっくりと採餌でき、一冬越すのに適当な場所として、芦屋の各地域から集まってきている傾向があります。また、旅鳥のように広い範囲を移動する鳥たちには翼を休めるのに適当な休憩場所を提供しているとも言えるでしょう。さらにここに新しい生息場所を見いだした海の生物、特に魚の稚魚や

幼魚などがたくさん生息をしいしたこと、磯が形成されたことによって海藻類なども繁茂し始め、これらの鳥の餌も豊富にえられる条件もできました。

これらは元は海だったところに人工の海岸を造成したことによって、広い海域に陸地が出来、その環境に新しい条件が生まれたことで、これらの鳥たちにとっても、今までと違った新しい豊かな環境が形成されたことを意味します。この中でこの南芦屋浜を中心とした新たな生態系が今後発展していくことを見守っていきたいと考えます。

[古市景一]

芦屋市総合公園「ビオトープ」生きもの調べ  
— 芦屋の古い住人を残した「ビオトープ」の役割、再確認 —

芦屋市総合公園事務所より、公園内の「ビオトープ」の水抜きをするので中の生き物を調べてみたらという話がありました。以前、「アリゲーターガー」が捕獲されたという話も聞いていたので、何が放流されているかいささか不安でしたし、また、予想としてもたぶん外来種が多く放されて

いるのではないかとされていたのですが、あとで見ると、結果は予想とは全く違った内容となり、驚かされた次第です。以下、当日捕らえて種類を確認した「ビオトープ」の生き物についてまとめておきます。

I. 「ビオトープ」周辺の自然環境について

まず「ビオトープ」をとりまく自然環境ですが、面積は約250㎡、満水時の水深は約50～60cm程度、底は軟泥、ヘドロ状で20cm近くぬめりこむ状態でした。従って水は常時でもうすく濁っている状態で、当日は多くの人が入ったため、泥水状態でした。周辺は水中からアシやコガマが生い茂っており、水中からは熱帯スイレ

ンが数株生え、花を咲かせていました。これらの水中より生える植物の根近くの茎が、この池に棲む生き物の適当な隠れ場所を提供し、魚やエビ類の生存にとって好適な環境をつくりあげていると考えられます。池に採集に入る前、水の減った水面を密集して泳ぎ回る魚などの姿が見られました。

II. 芦屋市総合公園ビオトープの生き物たち

A 魚類（さかなの仲間）

①モツゴ コイ科カマツカ亜科モツゴ属

大きさは、成魚で雄が6～12cm、雌が5～8cmと雄が雌に比べやや大形です。口ひげはなく、口は吻端にあって小さく、下あごは上あごよりも突き出した感じです。このため「くちぼそ」の別名があります。繁

殖期の雄は、体は黒色になります。3～8月頃



に産卵し、雄が卵を守ります。雄、雌とも若い個体は、体側の黒い縦縞が明瞭です。関東から西日本にかけて分布し、浅い池の泥底や川の細流に棲んでいます。食用になり、特に冬は美味です。芦屋ではかつて岩園町の仲ノ池などに多数生息していましたが、市内では絶滅した魚です。このビオトープには、大量に生息しており、たも網ですくうといっぱい入る状態

でした。恐らく創設時に放されたものが、ずっと生き残り増えてきたと考えられます。今となっては貴重な存在なので何とか残していきたいものです。



### ②メダカ メダカ科メダカ属

かつては「メダカの学校は川の中…」と小学校唱歌に歌われたメダカも、今では「絶滅危惧種」に指定されるほど少なくなっていました。それは本来の生息場所であった田園付近の側溝が、コンクリート張りとなって生息できなくなったのが大きな原因といわれています。また、田にまかれた農薬も大きく影響しているようです。芦屋でも宮川の側流にわずかに残っているのが確認されています。このビオトープには、それぞれ「うじゃうじゃ泳いでいる」と形容してよいほど大量に生息していました。これも創設時に放されたものが大繁殖したのでしょう。メダカは体長4cm位の小形の魚で、北海道をのぞく日本各地の平地の池や、流れのゆるやかな川や田の側溝などに普通に見られたのですが、近年はほとんど見られなくなりました。

野生種はこの2種だけですが、こ他に放流されたと思われる大きなニシキゴイ(コイ科:赤と白のまだらのもの;体長約60cmほど)と巨大なリュウキン(コイ科:金魚の仲間の品種;体長40cmほど)が各1尾ずつ捕まったのは驚きでした。他に、ヒメダカ(メダカ亜科)、グッピー(カダヤシ科)らしいものを見かけましたが、多くの魚の中に紛れて確認できませんでした。



### ③魚以外のビオトープの生き物たち

魚以外の生き物は種類としては驚くほど少なかったのも特色でした。最も個体

数が多かったのは、スズエビで、これもモツゴ、メダカ同様、「うじゃうじゃ」する

ほどいっぱいいて、たも網のひとすくい

たちに人気が高かったのは、アメリカザリガニでした。

### ①スズエビ 甲殻類エビ目テナガエビ科

芦屋川でも多く見られる川エビの仲間

ここに大量と言え



### ②アメリカザリガニ 甲殻類アメリカザリガニ科

体長10cmほど。このビオトープで唯一の外來種で、1927(昭和2)年に、アメリカから食用ガエルの餌として持ち込ま

く見られましたので、手づかみでも捕ま



### ③ギンヤンマ幼虫(やご) 昆虫類トンボ目ヤンマ科

すくい上げた泥の中にやや大形の「やご」が数匹入りました。ヤンマの幼虫のやごのようで、あとで調べてみるとギンヤンマの幼虫(やご)と判明しました。このヤンマもかつては芦屋のどこにでも見られたヤンマでしたが1980年代(昭和55年頃)から急速に姿が見られなくなりました。このヤンマが、このビオトープで生きなが

らえて驚きでした。トンボ・ヤンマの「やご」は面白い生態を持っていて、水草の間や泥の中に潜ってじっとして、獲物を待ち構え、獲物が近づくと、へらの



ようになった折りたたみ式の下あごで素早く捕らえます。餌はメダカや魚の稚魚、おたまじゃく、あかむし、イトミミズなどです。餌が少ないとやごと同土共食いをします。また、呼吸は腸にあるえらで呼吸をします。このため口から取り入れた水をお尻から勢いよく噴射して泳ぐことができます。

ビオトープの周辺には、シオカラトンボ、アカネの仲間（あかとんぼ）も飛んでいましたので恐らくこの池で発生している

と思われませんが、「やご」は見つかりませんでした。以上が今回の調査で見つかったこのビオトープの生き物たちです。

池内の微生物等については、今回調査は行いませんでしたが池の自然状態から考えて、ミジンコなどの動物性プランクトンや緑藻などの植物性プランクトンの生息も推測されます。このような微小生物が、それを餌とするエビやメダカなどの小魚多くを支えていると考えられるからです。

### III. 調査結果からの「ビオトープ」生きものまとめ

冒頭でも述べましたように、この総合公園の「ビオトープ」にはどんな生き物が棲んでいるかまったく未知の状態でした。予想としては、外来種の危険生物が捕獲されたとの報道もあり、かなりの外来種が放流されているのではないかと考えられました。しかし結果は全くその逆で、むしろ、芦屋市内の他の池や川で絶滅したり、激減したりしているモツゴやメダカが多数生息していたという意外な結果が判明しました。ギンヤンマの「やご」についても市内の他の地域ではほとんど見られなくなっていたものです。

このことは、「ビオトープ」という人工池の一つの効用を示している結果ではないでしょうか。この「ビオトープ」がつくられた当時、恐らく市内の池や川からいくつかの魚や水生生物がここに放流されたと

したもの、いまでも現存しているという事実です。「ビオトープ」という人工的な小池であっても自然状態のもとに置かれれば、ここで自然繁殖しながら生きながらえることができるからです。「生物多様性」の大切さが課題とされている現在、改めて種の保存に「ビオトープ」という取り組みが一定の役割を果たしていると言えるのではないのでしょうか。

今回、この池で見つかったのは、先に述べたように魚類2種、甲殻類エビの仲間2種、ヤンマ類1種と種の数としては少ないですが、池の大きさからいえばやむを得ないと思われま。それでもとりわけ魚2種やスジエビの個体数の多さからいならば、これらの種の保存に充分大きなたらきをしていると言えます。また、池の周辺のアシやコガマも芦屋にはそう多くなく、特にアシは「芦屋」の地名になってい

るにもかかわらず、市内ではわずかに仲ノ池と宮川の一部に生育しているに過ぎません。これらの水生植物の保存にもこの「ビオトープ」が一定の役割を果たしていると言えるでしょう。

これらのことから考えて、今一度「ビオトープ」の意義とそのあり方を考えるよいきっかけになったのではないと思われる事業でした。

[古市景一]

### おまけ

#### ASHIYAどんぐり大作戦 記念植樹 (H23.4.16)

ASHIYA どんぐり大作戦に参加者のみなさんと、芦屋市総合公園ビオ

トープ付近に約350本のどんぐりの苗木を植樹しました。



植樹の受付は長蛇の列です



芦屋市長も植樹しました



楽しく植樹をしています



すてきな森になるといいですね

